

令和2年9月16日付【日本下水道新聞】
 <コロナ禍、災害激化踏まえ>
 国交省へ提案活動 役割明確に、着実な推進を

水コン協

コロナ禍、災害激化踏まえ

国交省へ
 提案活動
 役割明確に、着実な推進を

全国上下水道コンサルタント協会の村上雅亮会長はじめ協会役員らは9日、国土交通省下水道部を訪問し、新型コロナウイルス感染症対策や自然災害の激甚化など現下の事業環境を踏まえ、下水道事業が担う「安全・衛生・環境」を守る役割を明確かつ着実に推進するための五つの施策を提案した。自然災害やコロナ禍での危機対応での民間活用や、デジタル技術を活用したリスク対策強化などの必要性を訴えた。



国交省からは植松龍二 課長(Web参加)、本田 下水道部長をはじめ、下 康秀下水道事業調整官、水道企画課から梶原輝昭 下水道事業課から松原誠 課長、吉澤正 宏事業マネジ メント推進室 長、末益大嗣 同室課長補佐 が出席し、提案された内容について水コン協側と意見を交わした。冒頭、村上 会長は「新型コロナウイルス

① 「安全・衛生・環境」

ス感染症や自然災害が猛威を奮う社会環境にある中、国と意識を共有し、目の前の問題解決の一助となれば」と提案活動の趣旨を述べ、植松部長は「災害対応、ストック老朽化などの課題が山積しているが、これらの解決へ制度づくりや拡充などに取り組んでいるところ。今回の意見交換を踏まえ、施策へと反映できれば」と応じた。

② 下水道の役割を明確に

③ 下水道事業におけるデジタルトランスフォーメーション(DX)の推進

④ 地域の「安全・衛生・環境」に貢献する下水道リノベーションの推進

⑤ 下水道施設を利用した都市の危機耐性の強化

①では、下水道の役割を明確に

②では、リスク対応での民間活用や連携強化の重要性を説いた。

③では、感染症対策として維持管理の自動化・無人化、災害対策としてデータ取得・分析・活用に関するセンサー・AI・ロボティクスの実装など、DXの戦略的な推進と技術開発の促進を求めた。

④では、下水道が持つ機能や資源を地域の安全確保、魅力ある地域づくりに活用されるよう、施策等の推進を求めた。

⑤では、感染症対策として下水中のウイルス検査による感染状況の把握や流行地域の把握などに関連する体制整備や技術開発の推進を求めた。自然災害対策としては、災害の予知予測、避難支援に関する情報提供、下水処理場の災害拠点としての活用などを通じて危機耐性の強化に貢献していくことを提案した。

を守る下水道の役割を明確にした事業執行と予算確保②感染症や自然災害のリスク対応を踏まえたPPP/PMI等の加速③下水道事業におけるデジタルトランスフォーメーション(DX)の推進④地域の「安全・衛生・環境」に貢献する下水道リノベーションの推進⑤下水道施設を利用した都市の危機耐性の強化

の5施策。新型コロナウイルスや自然災害などのリスクを抱える現下の事業環境における打開策として、緊急的に取りまとめた。正副会長ほか、各支部長らで内容を起案および承認し、今回国へ提案した。

①では、下水道の役割を明確に

め、下水道が担う機能の重要性の発信や着実な事業執行を求めるとともに、令和2年度補正予算および令和3年度予算の確保を求めた。

②では、リスク対応での民間活用や連携強化の重要性を説いた。

③では、感染症対策として維持管理の自動化・無人化、災害対策としてデータ取得・分析・活用に関するセンサー・AI・ロボティクスの実装など、DXの戦略的な推進と技術開発の促進を求めた。

④では、下水道が持つ機能や資源を地域の安全確保、魅力ある地域づくりに活用されるよう、施策等の推進を求めた。

⑤では、感染症対策として下水中のウイルス検査による感染状況の把握や流行地域の把握などに関連する体制整備や技術開発の推進を求めた。自然災害対策としては、災害の予知予測、避難支援に関する情報提供、下水処理場の災害拠点としての活用などを通じて危機耐性の強化に貢献していくことを提案した。